

【活動の主題】 馬淵小学校まるごと図書館

【副題】 「本が好き！」と言える子を目指して

【学校名】 近江八幡市立 馬淵小学校

1 本校の概要

本校は、近江八幡市の東南部に位置する全校 146人の小規模校である。学区は、西部は日野川をはさんで竜王町、東部は東近江市と接している。離れているため市立図書館の利用率が低く、移動図書館車の活用をいち早く始め、全校で本が借りられるような体制をとっている。また、図書館を利用する授業に取り組み、係や委員会を活用した読書活動を続けているが、読書習慣に結びついていないのが現状である。図書館の図書は寄贈によって充実してきたが、学級文庫には色あせた古い本が並んでいる。市立図書館からの払い下げやブックポストを使った地域からの提供も受けているが、圧倒的に9類（物語）の本が多く、読書の幅が広がらない。本を読みたい、調べたいと思っても、教員が図書室に連れていく、休み時間の図書委員会の活動を待つことが多く、読書意欲が高まった時に本が提供できていない。学力・学習状況調査から、家庭での読書時間が短いことがわかっている。

2 取り組んだ内容

(1) 特設コーナー

昇降口を入って正面に少し広くなった空間がある。昨年度までは、委員会の報告や保健のお知らせなどを掲示していたが、その前に机を置き、学習・季節・行事などに関係する本を並べる特設コーナーを作った。通年で草花や虫を調べるために図鑑を置き、5・6月は音楽会に、9月からは運動会に向けて音楽と体育に関連する本、12月は人権週間に合わせて人権に関する本を並べた。11月には、給食環境委員会がリサイクルに取り組むことから関連する本を並べた。委員会で作成したポスター、リサイクルボックスなども一緒においた。このコーナーが全校に活動を意識させるきっかけとなった。



(2) 調べものコーナー

1学期から図書室にあったポケット図鑑を何冊か特設コーナーに置いていたが、2学期から理科でアオムシを育てた3年生が、幼虫を捕まえてきて調べることが多くなかった。虫かごを置いて調べるには、特設コーナーが狭かったため、机といすを置いて調べものコーナーを作った。ポケット図鑑のラインナップを豊かにしたことと、虫かごに生き物を入れて登校する児童が増えたことをきっかけに、調べものコーナーを活用する児童が増えた。

(3) 特別教室への本の配置



特別教室にはその教科に関連した本を配置し、興味を持った時、また、わからないことがあったときにすぐに調べができるようにした。学校司書が、図工室、音楽室、理科室にちなんだ手作り本棚を制作し、各特別教室に並べたところ、その時間に関係のある本とは限らないが、教室を移動ってきて教員が来るまでの持ち時間などに本を見ている姿が見られた。

3 活動の成果

調べものコーナーで、何人かで手分けして虫を特定し、餌を調べ、世話をしている姿は、本校のスローガン『はじめて まごころ まなびや まぶち～学ぶ・考える・行動する～』を体現するほほえましい姿である。また、特設コーナーの設置は、児童の全校行事や活動への意識向上の一助となった。学校司書が子どもたちの読書環境を良くするために共に『まるごと図書館』作りに取り組んでくれたことが大きかったと思う。特別教室の本は、まだラインナップがさみしいので、これから充実させていく予定である。これからも子どもたちが「読みたいときに、すぐ読める」環境を整備していきたい。

